



赤城山麓の森林地帯に自生するキンラン。
適切な環境下では、人の手を入れずとも毎年花を咲かせてくれるものです。

(撮影：太田市 古屋すみれ)

群馬県環境アドバイザーの登録状況

(2023年7月20日現在)

第12期(登録期間：2021年4月1日～2024年3月31日)の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計360名です。自然環境部会143名、温暖化・エネルギー部会117名、ごみ部会92名、広報委員会34名が登録し活動されています。

群馬県の環境情報サイトに
環境アドバイザーのページ開設しました



<http://www.ecogunma.jp/>

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、
<http://www.ecogunma.jp/?p=12747>

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。
<http://www.gccca.jp/volunteer/>

目次

- P2, 3 令和5年度 地域環境学習推進事業
- P4 活動を支えるもの 副代表 奈賀由香子
- P5, 6 SDGs ボードゲームで・・・
 - 温暖化・エネルギー部会 本多洋治
 - 食品ロス削減推進サポーター会議
 - ごみ部会 山田一朗
- 太田市 金山の自然
 - 自然環境部会 飯塚絢一
- P7 「カッコソウ」の観察会に参加して
太田市 柴田康徳
- P8 ゴミ持ち帰り運動発祥の地“尾瀬”
前橋会 酒井義明

地域環境学習推進事業

環境政策課

県では多くの県民の方に、地球環境から身近な生活環境まで幅広い環境問題に対する理解を深めていただき、一人でも多くの方が環境保全活動へ参加されることを目的として、平成11年度から「地域環境学習推進事業」を行っています。

環境アドバイザーが所属する団体や環境アドバイザーにより構成する団体などが環境学習の機会を提供する事業を県が委託して実施しているものです。

環境アドバイザーの活動経験を生かして、環境学習の企画を立案し、応募していただいております。



応募いただいた中から10事業（10団体）を選考し、委託します。事業終了後に委託料が支払われます。

今年度実施予定の事業の一覧を掲載いたしました。一覧をご覧の上、それぞれの事業に参加してみたいかどうか。お問い合わせは、群馬県環境サポートセンターまでお願いします。

(TEL : 027-226-2827 Mail : ecosusumu@pref.gunma.lg.jp)



令和5年度 地域環境学習推進事業実施予定事業一覧

No.	事業名等	講座名等	開催日	曜	定員	対象
南橋の自然観察と環境を守る会 会長 宗 義彦						
1	身近な自然に目を向けて、地域の自然環境を守ろう	桃ノ木川上流域の自然観察会	7月16日	日	50	幼児以上
		赤城白川下流域の自然観察と河川敷の清掃	10月22日	日	50	幼児以上
		敷島公園冬鳥の観察会	1月28日	日	50	幼児以上
NPO法人新田環境みらいの会 理事長 西村 豊						
2	八王子丘陵の地質見学・岩石の調査と太田市クリーンプラザ・リサイクルプラザの見学・職員との意見交換	八王子丘陵の地質見学と岩石セットの作成	8月20日	日	20	小5以上
		太田市外三町広域清掃組合クリーンプラザ・リサイクルプラザの見学と太田市清掃事業課職員との意見交換	9月28日	木	30	小5以上
生きものたちの庭 ガーデンクラブ 代表 井上 金治						
3	楽しく学ぶ親子環境教室	生物多様性と環境に優しい生活	10月22日	日	20	小5以上
		太陽の力と森林の再生	12月3日	土	20	小5以上
群馬県環境アドバイザー連絡協議会 温暖化・エネルギー部会長 奈賀 由香子						
4	ゼロ宣言の仲間づくり～ゲームから実践へ！～	脱炭素ゲームから身近な実践へ	9月3日	日	50	高校生以上
エコクラブ「はじまるキッズ」 代表 梅山 さやか						
5	あなたの身近な「石倉ネギ」と「利根川」で学ぶ環境	石倉町の「石倉ネギ」を知ろう	9月16日	土	30	幼児以上
		利根川の水～上流に住む私たち～	10月7日	土	20	幼児以上
上州ぐんまESD実践研究会 代表世話人 萩原 豪						
6	第6回上州ぐんま市民環境保全活動発表会&交流会(上州会議2023)～地域に根ざした「持続可能な社会」の担い手を育成するためのESD/SDGs活動～	地域に根ざした「持続可能な社会」の担い手を育成するためのESD/SDGs活動	12月2日 または3日	土 または日	100	高校生以上
認定NPO法人じゃんけんぼん 理事長 井上 謙一						
7	私にもできるSDGs～『ごみ』を活用してみよう！	『ごみ』はどこへいくのかな？ コンポストをつくってみよう！	8月23日	火	15	幼児以上
		『ごみ』どこからやってくる？ 着られなくなった服を変身させよう？	12月27日	水	15	幼児以上
環境カウンセラーズぐんま 会長 内山 恵子						
8	「上毛かるた」から学ぶ、ぐんま5つのゼロ宣言的くらし方のすすめ ～エネルギーの地産地消と持続可能な社会づくりをめざして～	「理想の電化に電源群馬」エネルギーの地産地消を知る・学ぶ	10月14日	土	50	高校生以上
		「利根は板東一の川」清流利根川を通じた持続可能な社会づくりを知る・学ぶ	11月11日	土	50	高校生以上
共愛学園前橋国際大学短期大学部食育研究会 代表 木村 祐美						
9	エコ・クッキングを学ぼう	エコ・クッキングで、身近な食生活からエコ活動を始めよう	8月26日	土	24	幼児から中学生
観音山丘陵の自然を守るネットワークの会 会長 近藤 英敏						
10	金井沢の生物多様性アップ作戦	金井沢の植物と生き物観察会	10月15日	日	20	幼児以上
		外来種(ニセアカシア) 退治と笹狩りクヌギ植栽後の整備と自然観察	2月 未定		20	幼児以上

活動を支えるもの

副代表 奈賀 由香子

シューマツハ・カレッジをご存じの方もいらっしゃるでしょう。環境系市民活動をやり始めてからもう25年。私が活動するうえで多く考え方を学んだのが「スモール イズ ビューティフル」の著者E.F.シューマツハです。これを読んで以来、環境負荷をできるだけ小さくする暮らしの実践、自然環境との調和は私たちが感じる豊かさと幸せにどうつながっているのか・・・いつか学んでみたい・・・!!!と、ずっとずっと思っていたのです。すると、なんと、この群馬で！それもみなかみ町で！シューマツハ・カレッジの名物ワーク「Deep Time Walk」があるというではありませんか！イギリスまで行かなくてもこの群馬で体験できるなんて夢のようです！さっそく申し込みました。



地球の歴史46億年を4.6kmに置き換えて歩くというものです。県のエコムーブ号にも46mの地球の歴史絵巻物がありましたが、実際に自分の足で歩くと、自分の身体全身で感じられます。誰もがそれぞれの思いを持って歩くので、感じ方も様々ですが、地球のこと、人類のこと、世界のこと、その中で暮らしている私たち・・・当初思っていた以上に深く深く心に刻まれたワークとなりました。この日の午後は赤谷プロジェクトの現場で話を聞き、自然と開発について体感、初日はユネスコエコパークのことや瞑想、翌日は水源と森と草原が同時に存在する入会地で過ごすワークなど、思い出すと・・・

ああ、語りたいたい!!! (笑)。

この生命の起源をたどる旅「みなかみ Deep Time Travel」という3日間のワークショップを企画したのは、Refill ぐんまの活動を一緒にしてくれている25歳の女性です。みなかみでグリーンスクールを作りたいと移住してきた彼女は、日本のFFF（グレッタ・トゥーンベリのフライディズフォーフェューチャー）Tokyoの初期からのメンバーでもあります。こういう方と知り合えたのも、なにがしかの活動を続けてきたからご縁をいただけたのだと思います。疲れてきてもう活動やめようかと思うこともあります。私にとっては、こういう出会いが活動の原動力になっていますね。とはいえ、10日ほど前に高熱で丸3日も寝込んでしまい、徐々に健康のありがたみを



実感する良い機会を得ました。各方面にはご迷惑をおかけしてすいません・・・カバーしてくれる仲間がいるのは本当にありがたいことです。何をしても、活動の大前提は自分の健康、家族の健康ですね（本日母が入院してしまい、いよいよ危ない・・・）。そう考えると、タイミングであるとか周辺状況であるとか、活動できること自体が奇跡としかいいようがないですね。この奇跡を起こしてくださっている、皆さま方に心から感謝しています。一緒に活動してください！本当にありがとうございます！

（最新情報：この3日間ワークは8月にも開催されるらしいです！）

SDGs ボードゲームで楽しく社会課題の解決を考えました

温暖化・エネルギー部会 本多 洋治

温暖化・エネルギー部会では、5月14日の定例会の中で、SDGs ボードゲーム群馬実行委員会で委員長をされている土居和彦様とスタッフ3名の方々にお越しいただき、SDGs ボードゲームを体験しました。



SDGs に関する取り組み事例を分かりやすく、かつ楽しみながら学ぶツールです。SDGs に関する

世界の課題解決事例を楽しく学びながら「SDGs 達成」と「自己成長」を目指すものです。また、SDGs の理解だけではなく、協力の大切さや広く深く考える思考力、現場感や課題感を養うことができます。各プレイヤーが年間予算や SDGs 達成期限の 2030 年までという限られた期限の中で、ゴールを目指します。

当日は、定例会に参加したメンバーが2班に分かれて、それぞれ土居様やスタッフの助けを借りながらゲームを体験しました。各メンバーが引いたカードに書かれた内容を読み上げることで、参加者全員が社会課題を認識することができ、解決に向けてみんなで協力しながらゲームを進めていくことができました。

あっという間に予定時間の一時間が経過し、途中で終了となったため、消化不良の感はありましたが、楽しく社会課題について考えることができました。この続きをまたやってみたい、との声も聞かれ、有意義な時間となりました。

食品ロス削減推進サポーター会議

ごみ部会 山田一朗

2030年までに達成すべき持続可能な開発目標 SDGs、ゴールの12つくる責任つかう責任のターゲット3は、小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させてなっています。食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことですが、食べ物を捨てることはもったいないことであると同時に環境にも悪い影響を与えています。日本の食品ロスの量は年間約600万トンと言われ、内半分の約300万トンは家庭から発生しています。また、年間約600万トンを人口1人あたりに換算すると年間約50kgで、これは日本人1人1人が、毎日お茶碗一杯のご飯を捨てているのと同じことになっています。世界には飢えて亡くなる人が少なくないのに、日本の食品ロスの現状は大いに憂慮すべきではないでしょうか。

内閣府の外局である消費者庁によって、食べ物を無駄にしない意識の醸成と定着を図るため国民各層がそれぞれの立場において主体的に課題に取り組み、社会全体として対応していくよう食品ロス削減推進サポーター制度

が創設されました。環境アドバイザー連絡協議会においても26名、環境アドバイザー高崎地区会として9名のサポーターが認定され、すでに県内各地で個人的活動を含めリフィール運動もつたいない運動フードドライブやフードバンクなどの活動をされています。ごみ部会では連絡協議会からの依頼を受け、サポーター活動の交流の場また新たな活動を生み出す場として、食品ロス削減推進サポーター会議を開催させていただきました。6月14日の午後1時から2時まで県庁会議室において、県廃り課の職員を含め18名（内サポーターは14名）が参加し、自己紹介や現状などの話がありました。次回の日時は未定ですが、サポーター個人として何ができるか、グループとして取り組めることがあるかなどのテーマで開催したいと思います。

太田市 金山の自然

自然環境部会 飯塚 絢一

関東平野の北端にある金山は、周囲はすべて平地になっている。南は太田市の市街地に隣接し、西、北、東は山際に散在する民家と農地（水田が多い）に囲まれている。山頂にある新田神社を含め、史跡も多い。山地に隣接する水田の脇を流れる小川では、ホタルを観察できることもある。登るコースも多く、麓から30分程度で登れるので、家族連れや近県から訪れる人も増えた。山麓をめぐる散歩道を楽しむ人も多い。山麓にあるカエデの並木道は新緑も紅葉も素晴らしい。



金山 松の育樹地

昔はアカマツが多くて「松の金山」とも言われていたが、虫害により伐採される松が多いので、結果として広葉樹が多くなっていく。芽生えてくる松もあるが、数年ごとに藪が刈払われるので松も切られてしまう。長期的には、人が育てようとしめない限り、アカマツの林は消滅してしまう。アカマツを植樹したこともあったが、その後の維持管理がされないの単なる密生した藪山に戻ってしまったところもある。

地球温暖化の影響もあると思うが、芽生えてくるのは常緑広葉樹が多いように感じる。つまり、冷温帯林から暖温帯林に遷移しつつあるように見える。森林の育成は長期的な計画が必要だが、単なる里山の位置付けでは無理がある。埼玉県奥武蔵の低山を歩いてみると、見事に管理された杉の植林地が多い。林業地と単なる里山との違いだろうか。



市役所から金山



金山山麓の散歩道

「カッコソウ」の観察会に参加して

太田市 柴田 康徳

環境アドバイザーを対象に 2023 年 5 月 2 日にみどり市のカッコソウ生育地の観察会が実施され、環境アドバイザーおよび新田環境みらいの会のメンバー 20 名が参加し、地元の方を含めて総勢 30 名ほどの観察会となった。カッコソウ観察後は地元の方による説明もあり、充実した観察会となった。

カッコソウは、桐生市・みどり市周辺の山地のみに自生するサクラソウ科の植物（学名：Primula kisoana var. kisoana）。拡大造林にともなう落葉広葉樹林の減少と過剰な園芸採集のため近年個体群の衰退が進んでいるという。環境省のレッドリストの絶滅危惧種 1A に選定されていたが、その希少性の高さから、平成 24 年 5 月には、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称：種の保存法）」の国内希少野生動物種に指定された。^{*1}

生育地域は非公開の私有地内となっているため、特別に許可を得て「みどり市の環境アドバイザー」の村田さんおよびグループの方々に案内頂きながら自然の中を気持ち良く歩いた山林地帯にあった。地元の有志の方々が大事に守って来られたカッコソウはスギ木立と枯枝に覆われた茶色の空間に突然現れ、小さくてきれいなピンク色の花を咲かせていた。

生育適地として選定した場所はここまで急な山の斜面になっていることは予想しなかったが、たどり着くだけでも容易ではなく、保護活動にはかなりの労力を要する状況であることが推察された。

絶滅の危機にある植物が村田さんの思いに導かれ、ここまで群生するまでになったのかと思うとこの活動に関わって来られた一人一人の活動の重要性を再認識した。

地元の方々、および知見をお持ちの環境アドバイザーの方々にお話を伺った結果、今後の課題としては、主に次の 2 点に集約されると思われる。①生育地でのカッコソウそのものを保全保護活動と共に、生育地の環境を保全すること。②継続的に保全保護活動に関わる人手、ボランティアの確保。①については、カッコソウは、本来落葉広葉樹林に生育している植物だが、スギ植林地の拡大により落葉広葉樹林からスギ植林地へと変わったため、カッコソウの生育に適した環境が減少したようだ。^{*2} 植物そのものの保全保護活動に加え、本来の環境を整えることで自然な群生を促せる環境づくりが大切だと感じた。②については高齢化社会を迎え、次の世代にこの保全活動を引き継いで行くための施策を講じる、例えば地元企業や教育機関等の SDG s への取り組みなどと連携した若手人材の確保育成が急務だと感じた。

観察会に参加した中で、地元の方がカッコソウはある意味、「地球環境の変化、気候変動のバロメーター」とおっしゃっていたことが忘れられない。

人為的に保護しなくても自然と生育できるような環境を取り戻すことは不可能なのだろうか、その可憐な花にこっそり問いかけながら山を下りた。



みどり市の環境アドバイザーによる道案内



カッコソウと村田さん

参考文献

*¹群馬県鳴神山における絶滅危惧植物カッコソウの 個体群再生に向けた取り組み

大谷 雅人 1*・西廣 淳 1・寺内 浩 2・寺内 優美子 3・鷺谷 いづみ 1 1 東京大学農学生命科学研究科・2 桐生市中央公民館・3 桐生自然観察の森 10_実践_大谷.pdf (jst.go.jp)

*²桐生市 都市整備部 公園緑地課 桐生自然観察の森 カッコソウ保護 カッコソウ保護 | 桐生市ホームページ (kiryu.lg.jp)

ゴミ持ち帰り運動発祥の地 “尾瀬”

前橋会 酒井義明

梅雨に入り天候が心配されるなか、貴重な晴れ間となった令和 5 年 6 月 10 日に尾瀬の散策を行いました（写真 1）。ミズバショウの見頃は過ぎましたが、短い夏に向けて様々な生きものの活動が活発になります。

定番となりつつあるゴミ拾いをしながら散策をしていると、「ありがとう」「ゴミしっかり持ち帰らないとね」など嬉しい声掛けをしていただけます。ゴミが落ちているといってもほとんどのものは、無意識のうちにポケットやリュックから落ちてしまったものようです（写真 3）。“尾瀬”という大きな自然の中では「ゴミを捨てない」という意識が自然と受け入れられるようです。日常の生活では、なかなかゴミ削減が進まない状況ですが、目指すべき、守るべき風景が見えると（写真 2）、いま出来ることをワタクシゴトとして捉えやすいのかもしれない。

環境アドバイザー連絡協議会には、自然環境部会、ゴミ部会、温暖化・エネルギー部会があり、それぞれ課題解決に向けて活発な活動を行っています。アプローチの仕方は違っても目指すべき未来はひとつです。

多くの方々がワタクシゴトとして目指すべき未来に向かって行動できるように、部会の枠を超えた交流をたくさんしたいと思います。



写真 1 至仏山と木道



写真 2 ヒメシャクナゲ



写真 3 一日で回収したゴミ

※尾瀬ヶ原で確認した動植物：

【植物】ヒメシャクナゲ、リュウキンカ、ワタスゲ、タテヤマリンドウ、ナガバノモウゼンゴケ、ヤマドリゼンマイ、ミヤマエンレイソウ

【動物】オビババヤスデ、アカハライモリ、ゲンゴロウ、ヌマガエル、コブヤハズカミキリ、カッコウなど

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年 4 回発行します。各号のレイアウトは 3 月、6 月、9 月、12 月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目 1 番 1 号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp